



北海道大学医学部は2019年
創立100周年をむかえました

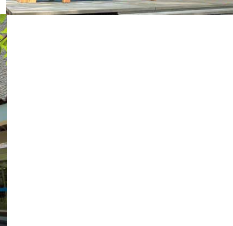
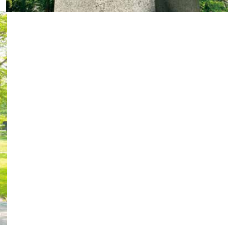
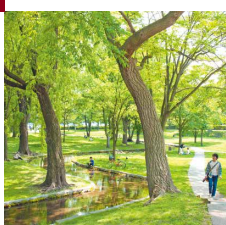
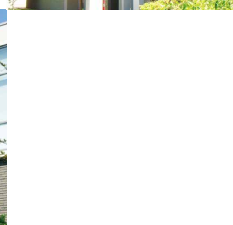
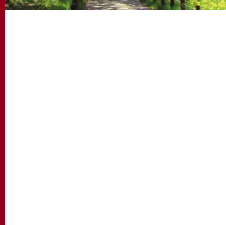
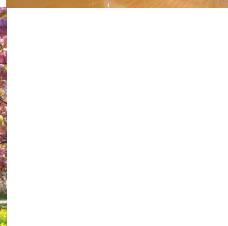
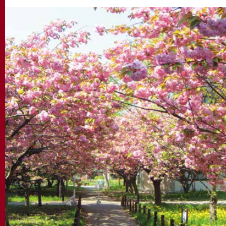
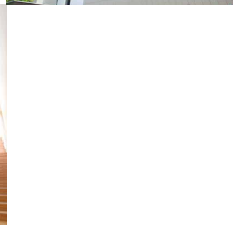
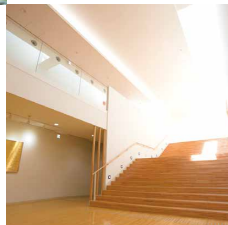
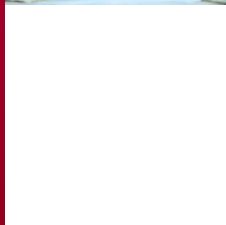
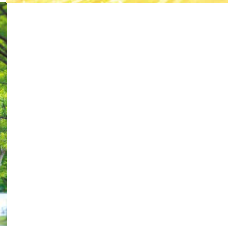


北海道大学

大学院医学院 修士課程案内

HOKKAIDO UNIVERSITY
Graduate School of Medicine Master's Program

2023



INDEX

■理念・目標／アドミッション・ポリシー 医学院長の挨拶	1
■医学院 講座・教室	2
■修士課程の概要 ・コース案内 ・各種インフォメーション 修士課程に入るには 顕彰・奨学金制度等について	3
■修了後の進路	4
■国際交流	5
■施設紹介	7
■マップ／交通案内	9
	10

理念・目標／アドミッション・ポリシー

■医学院の理念

世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることににより、人類の健康と福祉に貢献します。

■医学院の教育、研究目標

本医学院は、医学・生命科学に関する高度な知識と研究能力を備え、社会の要請に応える高い見識を備えた人材を育成します。また、基幹総合大学として国際レベルの研究を推進し、知のフロンティアを切り拓き人類の福祉に貢献します。

■アドミッション・ポリシー（求める学生像）

医学院では次のような学生を求めています

- ・生命現象の解明、疾病の克服、人類の健康の増進に向けて真摯に研究に取り組むことのできる人
- ・知的好奇心に富み、論理的な分析力、粘り強い行動力や協調性を有し、医学領域各分野において国際的なリーダーとして活躍できる人
- ・入学前に外国語（英語）の基礎的読解能力と作文能力を身につけている人

挨拶

北海道大学大学院医学院修士課程は、医学部医学科以外の大学で学んできた学生に、最先端の基礎医学や社会医学、臨床医学の知識を学び、経験を積んでもらい、関連するさまざまな異分野の学問の融合を促進し、独創力と俯瞰的な視点を有した医系研究者および高度専門職業人を養成することを目的としています。

本医学院は、医系分野の広い領域における優れた教員を擁しており、医学のさまざまな領域において国際レベルの研究を進めております。基礎医学領域では、ヒト生体の生理と病理に関連する研究が遂行されており、特に脳やがん、免疫における先端的研究が積極的に展開されています。社会医学領域では、現代社会が直面する諸問題について、ヒトの集団としての疫学的見地からアプローチする研究が行われています。さらに、「公衆衛生学コース（Public Health Course）」では、国際的に認められている「公衆衛生修士号」を取得できる教育システムが導入されています。現在進行中の高齢化や過疎化を含む北海道独自の地域の諸課題に対応できる実働的な人材を社会へ送り出すために、医師、歯科医師、薬剤師などの医療職での実務経験を有した学生に対しては、1年で修了できる「1年コース」も設定されています。臨床医学の領域では、疾患の病因・病態解明および新規診断法・治療法の開発、特に医理工学を応用した最先端診断・治療機器の開発、高機能新素材を用いた新しい治療法の開発などの卓越した臨床研究が行われています。

本学院で最先端の医学研究を学ぶ学生は、優れた科学者の一員として、崇高な倫理観のもとで、創造性の高い知の実践や諸課題の解決に主体的に取り組み、社会からの要請に貢献することが求められています。これまで北海道大学大学院医学院は、入学した学生の期待に十分応える能力・システムを準備してきました。未来の医学および医療を支える大志のある学生諸君の入学を歓迎いたします。

令和5年4月



北海道大学大学院医学院長
畠山 鎮次
HATAKEYAMA Shigetsugu

医学院で学生の受け入れが可能な教室を紹介します。

（令和5年5月1日現在）

講 座		教 室		
【医 科 学 専 攻】				
生理系	生化学	●分子生物学**	●医化学	
	解剖学	●解剖発生学	●組織細胞学	
	生理学	●細胞生理学	●神経生理学	
	薬理学	●神経薬理学	●細胞薬理学	
病理系	病理学	●統合病理学	●腫瘍病理学	■分子診断病理学
	微生物学免疫学	●免疫学	●病原微生物学	
社会医学系	社会医学	●衛生学	●公衆衛生学	●法医学
		●医療政策評価学**	●医学統計学	●医学教育・総合診療医学
		■レギュラトリーサイエンス**	■先進医療マネジメント学**	■医療安全管理学
		■ヘルスデータサイエンス	●医薬品医療機器評価学***	■臨床遺伝学・医療倫理学
内科系	内科学	●呼吸器内科学	●免疫・代謝内科学	●消化器内科学
		●循環病態内科学	●腫瘍内科学	●血液内科学
		★健康管理医学	■がんゲノム医療学	
	放射線科学	●放射線治療学	●画像診断学	●放射線医学総合研究***
外科系	外科学	●消化器外科学I	●消化器外科学II	●腎泌尿器外科学
		●心臓血管外科学	■乳腺外科学	■呼吸器外科学
	侵襲制御医学	●麻酔・周術期医学**	●救急医学	
専門医学系	機能再生医学	●整形外科	●形成外科学	■リハビリテーション医学
		■スポーツ医科学		
	生殖・発達医学	●小児科学	●産婦人科学	
	感覚器病学	●皮膚科学	●耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	●眼科学
	神経病態学	●精神医学	●脳神経外科学	●神経内科学
連携医学系	医生物学	●神経生物学	●人類進化学**	
	免疫科学	▶免疫生物学	▶分子神経免疫学	▶生命分子機構
	癌病態学	▶幹細胞生物学	▶がん制御学	

* 連携分野
** 令和6年度の学生募集は予定していません
○ 医学研究院所属の教員が担当しております
□ 北海道大学病院所属の教員が担当しております
☆ 保健センター所属の教員が担当しております
▷ 遺伝子病制御研究所所属の教員が担当しております

修士課程の概要

コース案内／各種インフォメーション

コース案内

社会の多様なニーズに対応した目的別のコース制による融合教育を行っています。

医科学コース

医学・生命科学領域の幅広い知識を持って活躍できる高度専門職業人の育成を目的とするコース

全コース必修共通コア科目に加えて、医学研究に必要な知識や技術を演習形式で学ぶ基本医学研究法と、口頭発表および論文作成の技術を修得する研究発表技法を履修します。さらに基本医学総論および基本医学研究により、高度専門職業人として必要な幅広い医学知識を修得します。

公衆衛生学コース

2年
コース

社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能を持って活躍する人材の育成を目的とするコース

米国の公衆衛生教育協会の認定基準に準拠した「疫学」「生物統計学」「社会行動科学」「保健医療管理学」「環境保健学」の5領域の基礎科目を必修科目とし、さらに各自の関心にあった選択科目を組み合わせることで、公衆衛生学の専門家として求められる能力を修得します。

1年
コース

一定の実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師などを対象として、医療・公衆衛生領域で活躍できる高度専門職業人を1年で育成することを目的とするコース

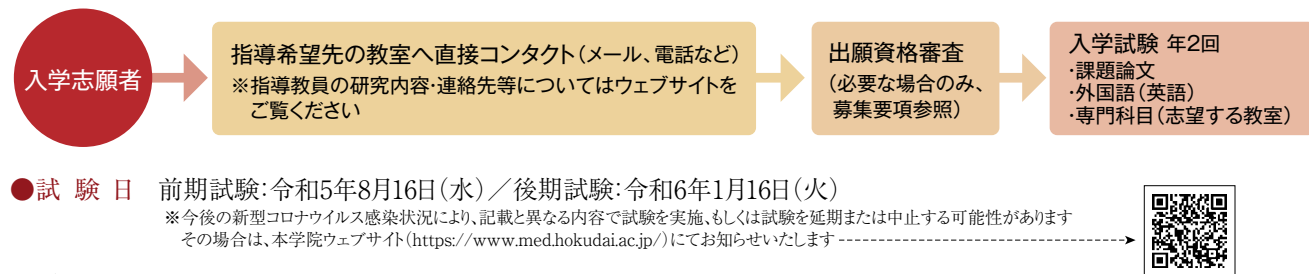
2年コースと同様の学修を1年で行います。修士論文または特定の課題についての研究の成果に関する審査および試験に合格することにより修了することが可能です。

修士課程に入るには

■入試について

- 募集人員 医科学専攻20名
- 出願資格 学士の学位を有する方等（公衆衛生学コース〈1年コース〉のみ医師・歯科医師等の実務経験が2年以上の方）
- 出願期間 前期試験：令和5年7月4日（火）から令和5年7月7日（金）まで
後期試験：令和5年11月24日（金）から令和5年11月28日（火）まで
受付時間：午前9時から午後5時まで。出願期間内必着のこと

●入試・選考の概要



■諸費用

●入学検定料*：30,000円 ●入学科*：282,000円 ●授業料*：535,800円（年額） （入学科、授業料は予定額です）

*国費外国人留学生（文部科学省奨学金受給者）は不要です。願書提出の際、必ずその旨を申し出てください

○詳細は大学院学生募集要項で確認してください

■長期履修制度（修士課程を3年または4年で修了する制度。公衆衛生学コース〈1年コース〉へ入学した方は、申請できません）

学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超える期間にわたり計画的に教育課程を履修したい旨を入学前に申請し、許可された場合、約2年間の授業料で最大4年間まで在学できる制度を設けています。

■修了要件

- ①修士論文または特定の課題の研究成果（公衆衛生学コース〈1年コース〉のみ）に関する審査、試験に合格すること
- ②所定の単位30単位以上の修得

MESSAGE コース在籍者からのメッセージ

新たながん免疫療法開発への挑戦

医科学コース／免疫生物学教室（令和4年度入学）

丹治 雅文（たんじ まさふみ）

学部時代は他大学で、異なる分野の研究を行っていましたが、免疫学的なアプローチに基づくがん治療法やがんワクチンの開発に興味を持ち、免疫生物分野に進学しました。大学院では最新の技術や発見に触れることができ、先生やラボのメンバーとのディスカッションや研究発表を通じて学術的な視野を広げ、新たな知見を得ることができます。現在私は、がん細胞を丸ごと用いた全がん細胞ワクチンの実用化を目指して、日々充実した研究生活を送っています。がん治療分野には多くの未解決の課題がありますが、新しい治療法や予防法の開発につながる成果を生み出したいと考えています。



医学に正確なエビデンスを

公衆衛生学コース（2年コース）／医学統計学教室（令和4年度入学）

大倉 裕希（おおくら ひろき）

幼い頃からの医学やデータサイエンスへの関心に加え、新型コロナウイルスの拡大を目にしたことで、医学に対してデータに基づくエビデンスを示すことに大きな意義を感じました。そこで、数学科から進路を変更し、医学院に進学することを決めました。私自身は現在、シミュレーションを通じた新たな統計解析手法の開発を行っています。医学統計学は、統計学・医学の両方に対する深い知見が求められることが難しくもあり、同時にやりがいを感じる学問です。日々の研究を通して、データからこれまで見逃されてきた特徴を新たに見出し、臨床の現場により正確なエビデンスを提供できればと思っています。



MESSAGE コース修了者からのメッセージ

ママ大学院生奮闘記！

公衆衛生学コース（1年コース）／ヘルスデータサイエンス教室（令和2年度入学） 医師

能代 朋美（のしろ ともみ）

私は初期臨床研修終了後、産婦人科医として働き、二児の母となりました。我が子の目覚ましい成長を目の当たりにし、「私も何か新しいことにチャレンジして、成長したい」と思い、以前から予防医学に興味があったので、公衆衛生学1年コースへ入学しました。大学院、子育て、仕事と怒涛の一年間でしたが、学べる喜びを感じ、充実した日々でした。家族のサポートなしには乗り切れなかったのも、とても感謝しています。

大学院卒業後は産婦人科医として総合病院に勤務し、学校で性教育を行う機会にも恵まれました。現在は第三子出産後の育児休業中ですが、今後も産婦人科医として予防医療に携わりたいと考えています。



■顕彰・奨学金制度等について

■顕彰制度

●医学院

優秀論文賞

優れた論文を発表した学生に優秀論文賞および副賞（10万円相当）を授与します。

高桑榮松奨学金

優れた業績をあげた若手研究者（大学院生を含む）に対する奨励賞（8～10万円〈3～4名〉）を授与します。

■奨学金制度

●医学院

音羽博次奨学金

学業・人物ともに優秀な学生および外国人留学生に奨学金（15万円〈各10名以内〉）を授与します。

●北海道大学

新渡戸カレッジ大学院教育コース

オーナープログラム履修生を対象に選考の上、奨学金を支給します。
選考にあたっては、基礎プログラムの成績や応募書類の内容等から総合的に判断します。

●その他

日本学生支援機構の制度

最も一般的な奨学金を貸与する制度です。第一種奨学金（無利息）と第二種奨学金（利息付）があります。
※詳細は同機構のウェブサイトをご覧ください

■ティーチング・アシスタント（TA）制度

TA制度は、広い意味の大学教育の一環として、よき大学教員・職業人となるための実地訓練（教育現場の体験）を目的として導入され、採用者には勤務実績に応じ、年間約7～10万円が給与として支給されております。

■リサーチ・アシスタント（RA）制度

医学研究院で行われている研究プロジェクト等で、修士課程に在籍する学生に研究補助者として参加してもらい、研究体制を充実させるとともに、若手研究者の研究遂行能力の育成を図る制度です。入学後に優れた研究業績をあげた学生に対し、その業績に応じて採用します。採用者には勤務実績に応じ年間約50万円が給与として支給されております。

修了後の進路

修士課程修了後、大学院博士課程への進学あるいは就職という二つの進路を選択することができます。

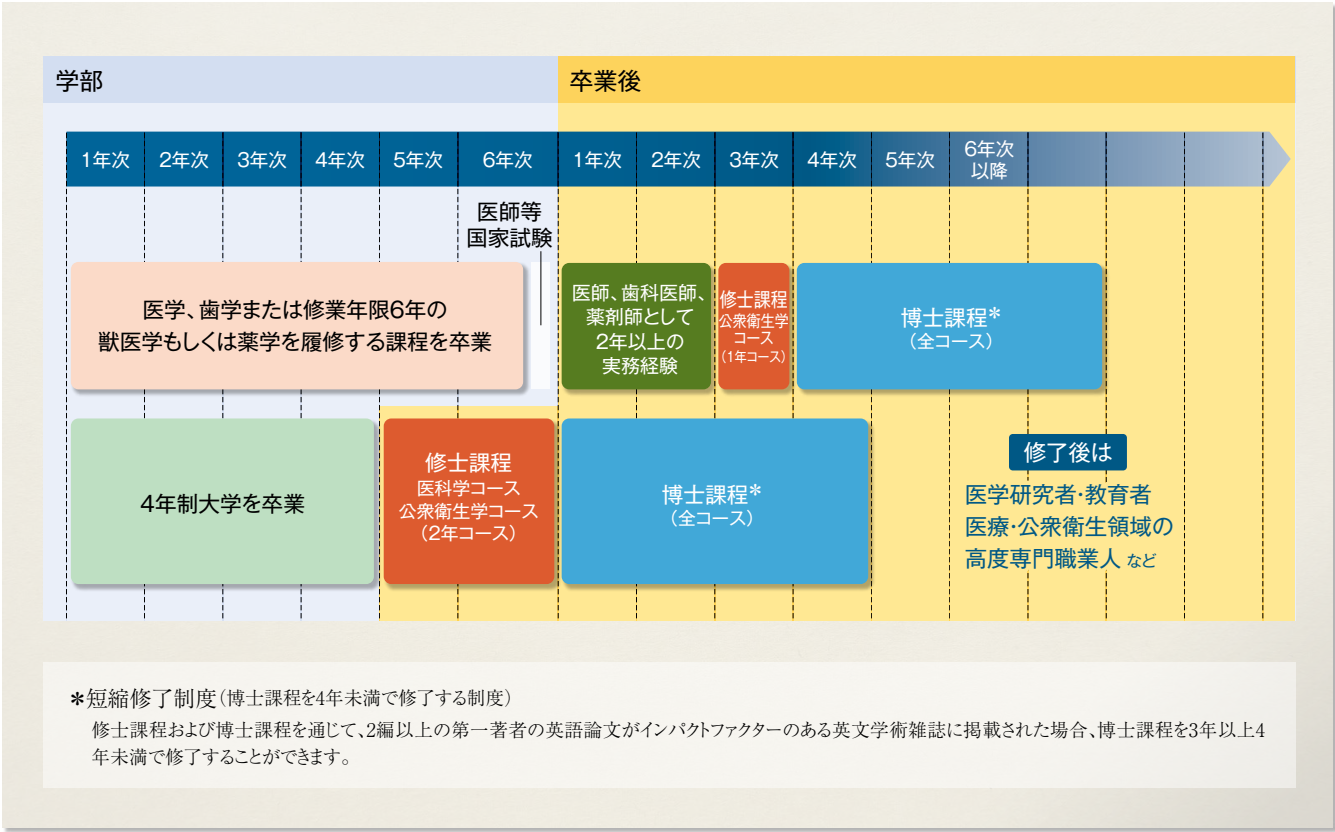
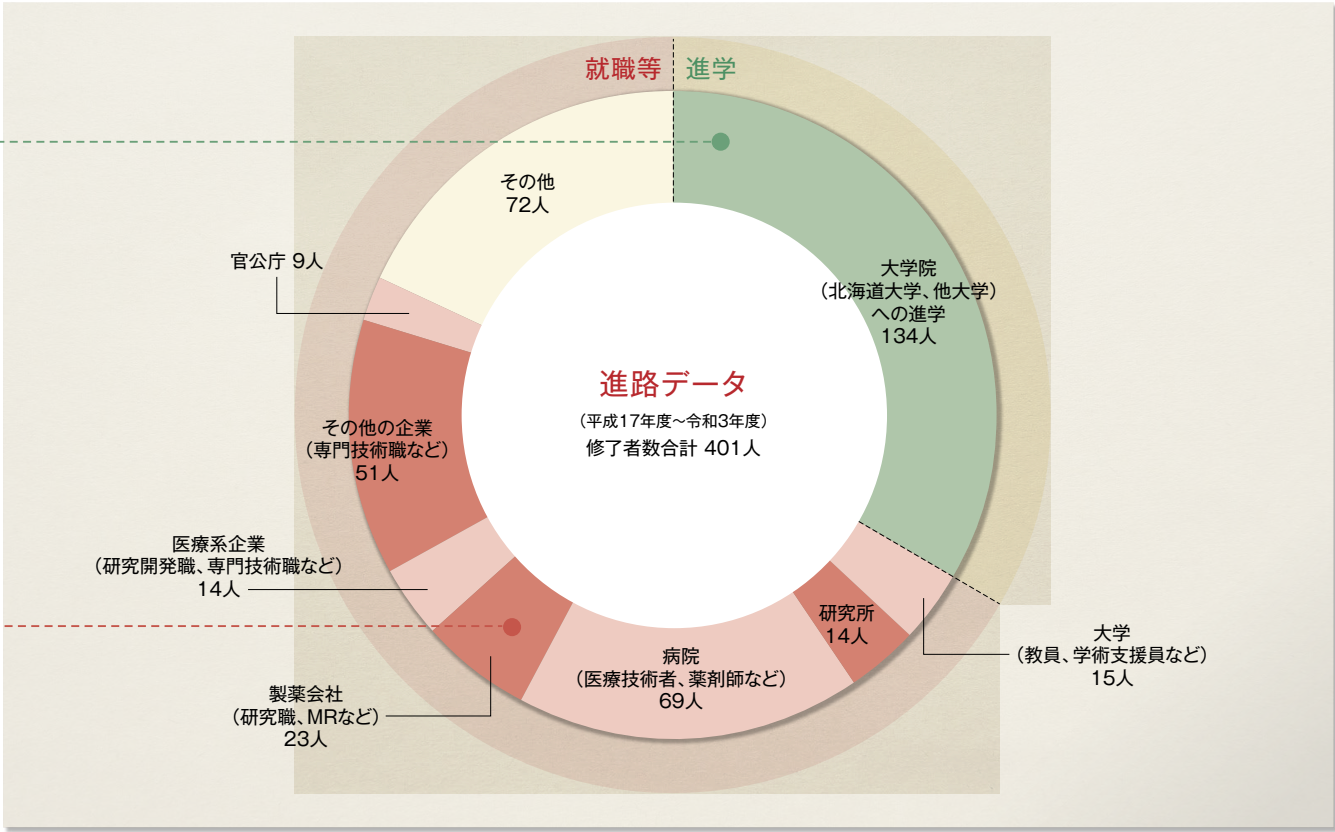
進学

修士課程修了の時点では、研究・教育ともに未完成のため、大学院博士課程に進学することが望まれます。引き続き本医学院博士課程に進学する場合、入学検定料および入学金は不要です。

就職

就職先の斡旋は、医学院全体でバックアップします。

	就 職 先	職 種
高度専門職業人として就職する場合	・医療機関 ・企業 ・官公庁	・生命科学研究 ・医療機器開発 ・医療／保健行政 ・医薬品開発 ・食品安全開発



MESSAGE 修士課程修了者からのメッセージ

自分の可能性を広げる場

修士課程公衆衛生学コース(2年コース)／公衆衛生学教室(令和2年度修了)
博士課程社会医学コース／公衆衛生学教室(令和3年度入学)

八重樫 昭徳 (やえかし あきのり)

私は病院で管理栄養士として勤務した後、他大学の修士課程を修了後、北海道大学大学院医学院修士課程に入学しました。様々な栄養や健康に関する情報に対して、正しく判断できる力を身につけるために、栄養疫学研究を実施したいと思い、公衆衛生学教室を選択しました。先生方のご指導のもと、「高齢者におけるたんぱく質と骨格筋との関連」というテーマで研究を実施し、学会発表や論文投稿を行いました。

その後、更に研究を実施する力を高めたいと考え、博士課程に進学し、「低炭水化物食と糖尿病発症との関連」というテーマで主に研究をしています。現在は論文の執筆と分析をする毎日です。

研究を実施し、論文を書くことは多くの苦勞がありますが、無事にアクセプトされ、自分の書いた論文が医学文献のデータベースで検索されるようになった時は、大きな達成感を得ることができます。これからも、たくさんの論文を書けるように研究を続けていきたいと思っています。こういった経験をしたい方は大学院の入学をお勧めします。



MESSAGE 修士課程修了者からのメッセージ

視野の拡大 -知識の現場で学ぶこと-

修士課程医科学コース／腫瘍病理学教室(平成24年度修了)
日本医療研究開発機構

我妻 孝則 (わがつま たかのり)

大学院では、光と顕微鏡を用いることで、がん細胞の挙動を観察・解析する手法を学び、マクロとミクロ両軸での論理的な思考を培うことの重要性を認識しました。レンズ越しに広がる空間に、一つの細胞が浮かび上がり、観測者自身と同時時間軸で起きる生命の振る舞いに、小宇宙を感じて心を奪われたのを思い出します。

修了後、発がんに関連するウイルスの研究プロジェクト等へ参加し、研究シーズや臨床ニーズに触れることで、さらなる視野の拡大ができました。現在は、感染症をはじめとする、健康・医療分野の社会課題解決を目指し、研究事業を基幹とした新たな潮流の中で、培ってきた科学的視点を活かした職務に就いております。



国際交流

北海道大学大学院医学院は、研究者の交流や共同研究を通じて国際化を図っています。現在、29大学等と国際交流協定を結んでいます(令和5年4月現在)。

国際交流事業の一つとして、国際交流基金を設けて外国人研究者の招へい・受け入れに関わる援助や補助、若手研究者の派遣・育成、留学生の奨学援助・補助を行っています。



医学院における外国人留学生数

(令和5年4月1日現在)

●国・地域別

地 域	国 名	人数
アジア59人	シンガポール共和国	1
	台湾	1
	中華人民共和国	53
	バングラデシュ人民共和国	1
	フィリピン共和国	1
	ベトナム社会主義共和国	1
	マレーシア	1
中南米1人	アルゼンチン共和国	1
中東2人	シリア・アラブ共和国	1
	トルコ共和国	1
合 計		62
外国人学生数(「留学」以外)		3

●所属別

()内は女子で内数

修士課程	博士課程
14 (12)	48 (24)

●経費別

()内は女子で内数

国費留学生	4 (2)
私費留学生	57 (33)
外国政府派遣留学生	1 (1)
合 計	62 (36)
外国人学生数(「留学」以外)	3 (1)
留学生および外国人学生総数	65 (37)

医学教育・国際交流推進センター 国際連携部門

留学生のサポート

医学院には博士課程と修士課程とを合わせて、10カ国62名(令和5年4月現在)の留学生が在籍しています。留学生が安心して学べる環境を整えるために、国際連携部門には常勤スタッフと留学生サポートスタッフがいて、留学生を学術・生活の両面からサポートしています。



国際連携部門

私たちのミッションの一つは、大学院医学院の国際的なプレゼンスを高めることです。海外の大学および研究機関とのパートナーシップを発展させて、最先端の技術と知識を提供し合い、時代のニーズにあった質の高い教育の提供を目指しています。



メルボルン大学(オーストラリア連邦)表敬訪問

優れた人材を育成し世界に向けて輩出するための取り組みにも力を入れています。将来、医療現場や研究で役に立つ実践的な知識、また、国際社会で通用するマナーとコミュニケーション能力を備えた人材育成を目指して、さまざまなセミナー・イベントを企画しています。



留学生との交流

詳細は国際連携部門のウェブサイトをご覧ください URL <https://edu.med.hokudai.ac.jp/international-relations/>

MESSAGE 修士課程在籍 留学生からのメッセージ

北大での研究生活

医学コース／がん制御学教室(令和4年度入学)
[中華人民共和国]

劉 佳芸 (リユウ カゲイ)

私はがんの研究に強い興味を持ち、がん制御学教室の修士課程に入学しました。現在、肝細胞がんの研究を行っています。肝細胞がんは、成人の原発性肝がんの中で患者数が最も多く、予後が非常に悪いがんです。多くの患者さんがすでにがんが進行した状態で診断され、手術を受けることができないことが大きな問題となっています。残念ながらほとんどの治療薬の効果はいまだ限定的であり、そのため、有効な新薬の開発は肝細胞がんの患者さんにとっては非常に重要と考えられます。

肝細胞がんの治療薬を開発するためには、有用な動物モデルを作成することが重要です。そこで現在私は、肝細胞がんの遺伝子変異を模倣したモデルショウジョウバエの作成に取り組んでいます。ショウジョウバエは迅速・簡便かつ安価など実験動物として優れた特徴を有し、大規模な遺伝子スクリーニングや薬物スクリーニングを行うことが可能です。

これらの研究を通じて、肝細胞がんの発生機序や治療薬候補を同定し、多くの肝細胞がんの患者さんを救いたいと願っています。



●管理棟



正面上部三角破風にあるレリーフは、大正時代の医学部建造物の歴史を引き継いでいます。正面玄関は、フラテ会館への入り口にもなっています。教務事務室は1階右手廊下沿いにあります。

●医学部学友会館「フラテ」



医学部創立90周年記念事業により建設され、平成22年に完成。280名収容のホール、特別会議室、大研修室などがあり、学術講演会、式典などの催しに利用されています。

●医学部百年記念館



医学部創立100周年記念事業の一環として建設され、令和元年に竣工。講演会や会議、同窓会行事など多目的に利用されています。

●臨床講義棟



医学院棟と北海道大学病院の建物に囲まれた位置にあり、両側から行き来できる通路があります。1階に二つの中講堂、2階には大講堂があり、大学院の必修講義は主に2階の大講堂で行われています。学生の授業のほか、学術講演会や各種式典などにも利用されています。

●医歯学総合研究棟



医学および歯学の2部局が運営する施設。地下1階から地上9階建ての建物には2部局共に利用可能な学生実習室、解剖実習室、動物実験室、オープンラボ、中央研究部門などがあります。建物は医学院の南側にあり、南研究棟と内部通路でつながっています。

●医系多職種連携教育研究棟



医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療関連職種の学生と職員が共に学ぶ「多職種連携教育」の推進を目的とする施設です。ここには、クリニカルシミュレーションセンターのほか、医療イノベーションセンター等を設置しています。

●大学院医学研究院・
大学院医学院・医学部図書館



医学系の専門書を中心に、雑誌を含めておよそ15万冊の蔵書があります。1階は閲覧室および書庫、2階は自習室とパソコン室、3階には主に学部生の講義が行われている講義室が2室あります。
〈開館時間〉平日9:00～22:00
※長期休業期間中は9:00～17:00

●医学部食堂



メニュー数約70品、席数120席前後。売店も併設し、文具・食品から白衣・実習着なども購入できます。
〈営業時間〉
・食堂部 平日11:00～14:00 土日祝 休み
・購買部 平日11:00～14:00 土日祝 休み



交通のご案内

J	R
●札幌駅下車	徒歩約20分
バス	ス
●札幌駅北口バスのりばから乗車	
中央バス屯田線 01-03-04	
北大病院前下車	徒歩約3分

地下鉄	
●南北線北12条駅下車	徒歩約10分
●南北線北18条駅下車	徒歩約10分
●東豊線北13条東駅下車	徒歩約15分

新千歳空港～札幌駅	
●JR利用	約40分
●バス利用	約80分



北海道大学大学院医学院 修士課程案内 2023

U R L

<https://www.med.hokudai.ac.jp>



お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課医学院教務担当

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

Tel: 011-706-5018/5019 Fax: 011-717-5286 Email: d-tanto@med.hokudai.ac.jp